

ママ、日曜であります

体当り共稼ぎ育児レポ

俵

たわら

萌

もえ

子

こ

昭和39年12月5日 初版発行

ママ、日曜であります

——体当り共稼ぎ育児レボ——

¥ 280

著 者 俵 萌 子 ©
東京都北多摩郡久留米町南沢
ひばりヶ丘団地31～5

発行者 秋 田 貞 夫

印刷所 三報社印刷株式会社

発 行 所 株式 秋 田 書 店
会社

東京都千代田神田三崎町2—21

振替東京99353・電話(261)5151～5

もし、落丁乱丁がありましたら、本社でお取替えいたします。

ママ、日曜でありがとう

——体当り共稼ぎ育児レポ——

俵 萌子

秋田書店

まえがき

新聞記者という忙しい職業をもちながら二人のこどもを育てるということは、やはり大変である。その忙しさのなかでわたしがこの本を書こうと思ったのには、二つの理由がある。

ひとつは、わたしが新聞の婦人欄で育児を担当していて、これほど育児書が氾濫していたながら、これほど育児もののブームでありながら、共稼ぎのために役立つ育児書がないということ。共稼ぎの育児理論の本格的な研究がまったくないということだった。

共稼ぎでこどもを育てるばあい、留守中はこどもを祖父母にみてもらうのがいいのか、保育所がいいのか。第三者、たとえば保育ママなら、どういう人を選ぶべきなのか、またその保育方針はどうたてればいいのか。保育所がいいならば、どういう保育内容ならば理想的なのか。

共稼ぎだからよけい心配な、母親の育児上の悩みに答えてくれる育児書は一冊もない。

経済の高度成長による求人増、いっぽう若年労働力の不足、消費文化の向上、物価の値上がり、教育費の増大、農村の人手不足など、さまざまな社会情勢から結婚しても働き続ける女性がふえてきた。母親になっても働く女性が多いのは、さきごろの厚生省の調査で「働く母親が五十四・六%」もいたという事実が証明している。

わたしも、その中の一人である。共稼ぎのための育児理論が研究されていないために、また一方では、共稼ぎの家庭の子どもと非行を結びつけたPRがさかんなために、不安な気持で四年余り子どもを育ててきた。

共稼ぎ育児は、みんな手さぐりである。それならば、育児記者として日ごろ仕事から学んだ育児法を共稼ぎに応用して、あるいは成功し、あるいは失敗したわたしのさやかな体験をご披露することも、多少のご参考にはなるう。また、わたくしが取材した共稼ぎママの先輩の体験談もつけ加えれば、いっそうお役にたつだろう、それがひとつの理由だった。

もうひとつは、最近論議をよんでいる働く母親への批判、「消費文化に毒されて、子どもを犠牲にしてかせいでいる」とか「働く母親には母性愛が欠如している」とか

「女の本来の姿は、家庭にあつて、こどもを育てることだ」といった声にこたえて、働く母親の気持を代弁してみたいと思った。

わたしの四歳になる娘は、かつて、ある日曜日、「ママ、日曜でありがとう」と、わたしに最敬礼したことがある。そのとき、わたしは胸が熱くなって、モノもいえなかった。いじらしい。ふびんだ。いっそ家庭にはいつて、この子のそばにべったりいてやりたい。他方ではそう思い、一方ではしきしきやっばり、わたしは働かなくてはならない。その二つの気持の戦いにあけくれてきたこの四年間。

そのあいだに、わたしなりに考えつめた政治への注文、母親としての気持の整理のしかたなどを、体験的共稼ぎ育児論とあわせて、読みとっていただければさいわいである。

I 協子誕生

まえがき	3
新聞記者と二人のこども	12
筆は一本、ハシは二本	16
お子さんは、まだですか？	20
ぜったい生むわよ！	25
おそろべき、つわり	29
ビニール袋の効用	33
つわり休暇がほしい	36
上役にうちあける時	40
やっぱり手もとで育てよう	44
なんと貧しい保育所！	47
マタニティ・スタイルの工夫	53
産休はこれでいいか？	57
産前休暇三分法	62

お手伝いさん、滑り込みセーフ 66
協子の名の由来 71

Ⅱ わたしの共稼ぎ育児論

- 死ぬんじゃないか 76
乳房はなんのためにあるか？ 81
育児ノートの秘密 85
ミルク騒動の結末 90
トイレに母乳を捨てる時 96
趣味と実益（？）の育児記者 100
お手伝いさん、突然の辞職 105
さようなら、協子 110
どこへ預けるのが一番よいか 116
共稼ぎママは絶交よ！ 122
べったり貧乏はイヤだ 126
連れ戻した協子 131

保育ママ時代はじまる 135

夫婦の危機は疲労から 139

最大の恐怖、こどもの病気 144

あと追いつに弱いママ 148

二代目のお手伝いさん 153

協子にもママいるんだよーだ 157

おみやげねだりの対策 162

共稼ぎだから兄弟をつくりなさい 166

こども倍増・苦労三倍増 170

うれしかった『幼稚園合格』 175

共稼ぎと学校行事への参加 180

Ⅲ 共稼ぎ家庭の理想像

だれにもわからないこと 186

先輩ママの教訓 191

『共稼ぎっ子』の声 197

共稼ぎママのバラ色の夢	204
ママ社員を必要とする時代	208
もう一度念を押したいこと	213
仕事が、ママの生きがいであるとき	218
共稼ぎの、家庭論	225
あとがき	233

カバー装画 柳原良平
本文さしえ 鮎沢まこと

I

協子誕生

~~~~~  
“ケエセラーセラー”と歌いとばすには  
あまりにも、ものすごいツワリだった



協子ちゃんもこの9月で満1歳になった

わたしには娘がひとり、息子がひとりいる。

そして、わたしは新聞記者だ。

亭主も新聞記者である。

新聞記者といってもさまざまあつて、テレビの事件記者みたいに、ネクタイの結び目をちょいとずらし、受話器をアゴにはさんで、ガンさんよ、なんていうイナセな社会部記者もいる。うちの亭主などは政治部記者。

あさ目が覚めれば、まず天下国家の情勢が気にかかる。おもむろに一面に目を通し、「ILOの八十七号条約はだなア」とか「南ベトナムのクーデターはきみ、だいたいアメリカがだよ」てなぐあいで、スケールが大きい。池田は、佐藤は、と、いったいダレのことかと、ひとがきいたら思うだろう。

金のことは、億単位でなら頭にはいるらしい。

真夏のうだるような日でも、キチンとネクタイをつけ、背広を着用してご出勤だ。

「ネクタイをつけていかんことには、ヤマトダマシイがはいっとらんといわれて、河野なんかに

会えんから」

というのが理由だが、ヤマトダマシイの河野氏はクーラーのきいた家から冷房車にのり、冷房完備の大臣室へはいるんだからいいだろう。しかし、うちのお大臣は、三Kの鉄筋長屋から、団地バスに揺られ、満員電車に乗って記者クラブへはいるんだから、ご苦労なこったと思う。まあ、しかし、そんなことはどうでもよろしい。かくて、ご出勤におよんだが最後、夜討ち、朝がけ、帰りはいつのことか、本人も忘れていようである。

さて、わたしは、婦人欄記者。専門は育児記事である。おむつは正方形がいいか、<sup>くけい</sup>矩形がいいか。金のことは、一円二円の牛乳代の値上げ、トウフの五円値上げ、まあ、その辺が興味の焦点で、億単位の亭主と比べていささかみみっちい。時間のほうは、いくぶんかちりしているが、それでも夜八時より早く帰れることはない。

はやりのすれ違い夫婦というよりは、わたしなどは、もはや、母子家庭、だと悟りをひらいた心境だが、そのわが家に誕生したのが、協子と健太郎である。

健太郎が生れて半年ぐらいたったところだったか、友人のH君と、こんな話をしたことがある。H君というのは、芥川賞の候補にもなったことがある新進作家だが、この人はいつも、この世の不幸をひとりで背負ったような顔つきをしている。

「つまらん。オレは不幸で不幸でたまらん」

というのが、彼のレクリエーションであるらしい。その日も彼は、お得意のそのセリフをいった。

「変ねえ、わたしは幸福で幸福でたまらないのに……」

「なんで、幸福なんだ？」

「だって、好きな仕事。かわいいこども、それも二人よ。仕事を終って団地のバスの停留所に降りるでしょ。暗がり、二羽のヒナが、大きな口をあけて待ってる顔が浮ぶ。なんともいいない充実感ねえ。足が宙を飛んでるっていうのは、まさにそのときの足どりだなア」

「ヘッ。動物的なんだよ、きみは、ライオンのおっかさんと変らんよ」

口の悪いその男は、わたしをからかう。

が、事実、この充実感、共稼ぎママなら、おわかりじゃないかという気がする。

わたしの郷里は大阪だが、仲のよかったおばあさんが、こんなことをいった。

「おなごは、こどもがでけると、しあわせだなア。強うなる。なんにでも根性がでてきよる」

そのおばあさんは、こどもを七人育てたつわものだが、根性がでておるのか、なにごとにも微動だにしなかった。

たしかに、こどもがでけると根性がでける、ということでは、わたしにも経験がある。



稀代の虫ざらいだったわたしは、ゲジゲジ一匹はってきても、  
・ヒャーッ・と殺人の現場を目撃したような悲鳴をあげる習癖をもっていた。

ところが、上のチビさんが生れたのは九月。いろんな虫が侵入してくる。そのうち一匹が、娘の顔の上にとまった。

わたしは、どうしたか。

とっさにひょいとつまんで、ひねりつぶして捨てたからあきれた。

(ほんまやなア、こらすごい。女は弱し、されど、母は強しか……)

つぶしたあとでソクツとした。生返らないかと、おそろおそろチリ紙で死骸をつまみ、水洗便所にもって行って流した。しかしわれながら驚嘆する変貌ぶりである。

まだある。からだが強くなる。

「よくまあ、二人もこどもがいて、新聞記者と女房稼業がつとまるわねえ、よっぽど、丈夫で長持ち体質、なのね」

変に人から感心される。だが、からだは元来、けっして丈夫なほうではない。結婚前も結婚してからも、よく寝込んだ。ところが協子が生れてから四年余りというものの、カゼひとつひかない。寝込んだことがない。体重も、協子が生れた直後は五十二キロから六十キロに増大した。雄大なおヒップ、まさにライオンのおつかさんだ。